いちょうの森だより

いちょうの森こども園　園だより　No.42

令和３年度３月１日　発行
いちょうの森こども園　園だより
桜が丘東３－３－４９６
TEL　086（956）2022
FAX　086（956）2023

いちょうの森こども園ＨＰには、ＱＲコードまたは下記のＨＰアドレスよりアクセスできます。
https://ichounomori.okayamakodomokyoukai.jp/

「今」を生きるこどもたち

晴れた日の陽射しは暖かく、こどもたちはすぐに上着を脱ぎ捨てて走っていきます。生命力あふれるこどもたちの傍らにいると、季節の移り変わりも一足早く感じられます。そらぐみのこどもたちの手作りの卒園制作が出来上がり、いよいよ別れと出会いの春が始まります。

令和2年度は、これまで当たり前にできていた日常が、実はかけがえのないものだったことに否が応でも向き合わされる年となりました。新型コロナウィルス感染予防のために避けるべきものに挙がる人との触れ合いは、乳幼児期のこどもにとって最も重要なことであり、特に身の回りの世話は抱っこや身体接触なしには成り立ちません。また、人との関わりの基盤を築く時期にあるこども同士の言葉のやりとりや、体ごとの触れ合い、集団活動など教育・保育の内容についても何が可能で、何を別の方法で行えるのか、考え続ける日々でした。また、全て防ぐことはできないにしても、少しでもリスクを軽減するためにできることを実践するにあたり、保護者の方々にもいろいろご協力いただきました。

そんななか、気づいたこともたくさんあります。少人数で行う方が効果的な活動、空間を工夫して使うなど保育者側のことだけでなく、こどもたちに手洗い・うがいの習慣が当たり前に身につき、大きいクラスの子は自分たちで密集やマスクの必要な場面に気づいて気をつける姿が見られるようになってきています。こどもの適応する力の柔らかさには驚かされます。

どんな状況であれ、こどもたちは常に「今」を全力で生きており、私たちに力をくれるのもその姿です。できないことに不満をもって鬱々とするよりも、毎日をしっかりと楽しみながら過ごすことの大切さを教えられます。

まとめをする時期になり、卒園するこどもたちに贈るパネル写真を選んでいます。一人ひとりの表情を眺めながら、これまでのその子の成長の過程が蘇り、改めてこの笑顔をずっと守っていける世界にしていく大人の責任を感じます。

最後になりましたが、この一年の園へのご理解、ご協力に感謝いたします。今後ともこどもたちのために手を携えていけたらと願っています。よろしくお願いいたします。

園長　　松本　清美

節分

今年は１２４年ぶりに２月２日の節分でした。こどもたちは「豆まくんよ」「オニ来るかな？」と登園してからソワソワ。節分の由来や豆まきをする訳を聞いて、いざ鬼退治。そら組鬼の登場には果敢に挑んでいた子も大人鬼が来ると大慌てでした。みんなで豆（新聞紙）をまいた後は各クラスにお福さんがやってきて幸せの紙吹雪をまいてくれました。

不審者シミュレーション

２月１７日（木）職員が不審者役をしてシミュレーションを行いました。園庭に不審者が侵入すると、保育者の声かけで鍵のかかる部屋へ避難しました。いつもと様子が違うことに気が付いて、怖がる子や、固まってしまう子もいました。身を守るための行動をとれるように知らせていきたいと思います。

3月

３日　卒園旅行
５日　誕生会
９日　避難訓練
12日　　健脚活動
24日　　卒園式
　　　　１号修了式
２９日～３１日　自由登園

4月

１日　進級会
５日　入園式
２０日～２３日　新入園児家庭訪問（未定）
２３日　誕生会
２７日　検尿
２８日　健脚活動

卒園製作

今年度はこどもたちと相談して、園の看板を作ることにしました。いちょうの森というだけあり、隣にたくさんのいちょうが植栽してあるので、その枝を頂いて、丸太に切り、並べて文字にしました。それから、文字から始まる言葉を出し合い、絵を描いたのですが、こどもたちの発想の豊かさを感じました。

お世話になった園舎や職員に感謝の気持ちを持ちながら、心を込めて作った看板を卒園してからも眺めることができたらいいな、と思っています。

こんなに大きくなりました！

そらぐみ

一年を通して、園のため、みんなのためと、当番活動を頑張りました。遊びたい気持ちや、面倒に感じることもありましたが、その気持ちを乗り越えて「こんなに汚れているよ、きれいにしなくちゃ」と近頃では言えるようになり、当番活動の時間以外でも気が付けば掃除をする姿が見られるようになりました。

認めてもらえればうれしくて頑張っていたところからもう一歩進み、人の役に立てることの嬉しさに気が付けたような気がします。そんなみんなは、きっと素敵な一年生になれると思います。

にじぐみ

進級当初は、食事の時にフォークを使っていたにじ組ですが、あそびの中に箸あそびを取り入れることで指先の感覚を掴み、箸で食事ができるようになった子が増えています。まだ、ぎこちなさはありますが少しずつ正しい箸の持ち方を意識できるようにしたいです。

ゆきぐみ

２・３月の製作で紙を長くちぎることに挑戦しました。保育者が切り込みを入れてでしたが、親指と人差し指をうまく使ってちぎっています。

春から短いホースを穴に入れるポットン落としを楽しんだり、靴や靴下をはこうとしたりすることで、少しずつ手や指が自分の思うように動かせるようになってきています。

ほしぐみ

１月から毎日挑戦している縄跳び。終わった後は縄を結んでから片づける。ということを毎日の習慣にしています。始めた頃は、思ったように結べず、苦戦したり、あきらめたりしていた子もいましたが、毎日することで、自分で結べるようになったり、友だち同士で教え合ったりできるようになってきました。まだ難しい子も「結んで」と友だちに頼りきりになるのでなく「どうやってやるん？」「これで合っとる？」と自分の力でもやってみようとしています。

難しいことや分からないことを、あきらめずに取り組み、友だち同士教え合ったり、伝え合ったりの積み重ねで、この一年でいろいろなことができるようになったほし組です。

はなぐみ

昼寝の前に絵本を読みました。絵本が始まると自然と集まり、座って見ています。絵本の中に出てくる動物の名前やくり返しの部分を真似して言っています。自分の知っているものが出てくると指さして知らせたり、絵本のあるところを知っていて次の絵本を読んでとアピールしたりする姿も見られるようになりました。また、絵本が終わり「おやすみなさい」と声かけをすると、自分で布団に入って寝るようになり、生活の中のいろいろな姿に成長を感じています。

つきぐみ

春は、気の合う友だちと砂場玩具や遊具で遊ぶ姿が多かったこどもたち。あそびのルールをしっかり理解してだんだんと友だち同士で「〇〇しよう」と楽しむ姿が増えました。

縄あそび『たこのはっちゃん』をこどもたちに投げかけたところ、すぐに興味を持ち、次の日にも「先生、たこのはっちゃんしたい」と縄を持ってきました。しばらく大人が縄を動かして楽しんでいたのですが、ある時から「自分たちでできるから見ててね」とこども同士で楽しむようになりました。「大きくなったな～」と思った瞬間でした。

人権キャラバン

園庭でダンゴムシを見つけたＡさん。「ダンゴムシ、かわいいな」と触って遊んでいました。しかし、しばらくダンゴムシを触っていたのですが、飽きたＡさんは「そのダンゴムシ、私のだから触らんでよ」「また後で触ってあそぶんじゃから」と言っていました。その場面で、そら組とロールプレイをすると「虫は観察したら逃がしてあげよう」「ダンゴムシもおうちに帰りたいと思う」という言葉が出てきて、みんなに伝えていました。

虫にも植物にも人間にも、一人に一つの大切な命があります。ゲームではリセットすると生き返ることができるけれど、実際には、なくなってしまった命は戻ってこないということや、一人ひとりが大切にされる権利があるということを、知ることができました。